

## 2 (参考調査) スターチス・シヌアータ「蒼雲」の栽培管理法調査

### 背景と目的

スターチス・シヌアータの市内で作付が多い品種「蒼雲」は、切花品質は良好ですが他品種より採花本数が少ない品種特性があります。育種者は摘心による株養成を他品種より長く行うことにより採花本数が増えるという見解を持っているため、その管理法を中心に採花本数の調査を行いました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会花卉部会

### 試験区の設定

- ア 慣行区 : 特別な処理を行わず地域慣行の栽培管理を行う区。
- イ 長期摘心区 : 慣行区に比べ、株養成のための摘心作業を長期間行う区。
- ウ 多灌水区 : 慣行区に比べ、灌水回数および一回量を増やす区。

### 耕種概要

- 作型 5月植え無加温 8月～10月切り (ビニールハウス栽培)
- 供試品種 蒼雲 (ホクレン, 紫系)
- 定植日 5月15日
- 栽植密度 床幅100cm, 通路幅100cm, 株間40cm×条間40cm, 2条千鳥植え
- 施肥量 N:P:K=1.5:0.8:0.8 (kg/a)

### 多灌水区の灌水について

多灌水区は慣行区よりも灌水回数および一回量を増やす区として、株養成時期および一番花終了後の期間に大きく増やす想定でしたが、この両期間が例年より低温傾向だったため灌水する機会が少なく、想定よりも両区の灌水量に差が付きませんでした。1株あたりの総量で比較すると、多灌水区は、慣行区の約1.4倍の灌水量で、回数は2回多かったです (慣行区11回, 多灌水区13回)。

### 試験結果

#### (1) 各生育調査の結果

慣行区と多灌水区は最終摘心日と採花始が同じとなり、採花期は多灌水区が若干遅くなりました (表1)。長期摘心区は摘心期間が長かったため、採花始と採花期が遅くなりました。

表1 各試験区の生育調査項目

試験区	最終摘心日	採花始	採花期	到花日数
慣行区	6月29日	7月31日	7月31日	77
長期摘心区	7月11日	8月14日	8月20日	97
多灌水区	6月29日	7月31日	8月3日	80

(2) 各試験区における採花総本数，規格内本数の比較

採花総本数，規格内本数が最も多かった試験区は慣行区で，全期間を通した規格内率も慣行区が最も高かったです（表2）。

表2 収量調査の結果

試験区	採花時期		採花総本数(本/株)		規格内本数(本/株)		規格内率(%)	
			期間別	合計	期間別	合計	期間別	全期間
慣行区	一番花	7/31~ 8/16	7.1	23.1	5.8	14.3	80.7	61.6
	二番花	8/20~11/ 1	16.0		8.5		53.1	
長期 摘心区	一番花	8/10~ 8/24	5.0	19.1	4.5	11.6	90.0	60.8
	二番花	8/28~11/ 1	14.1		7.1		50.4	
多灌水 区	一番花	7/31~ 8/16	7.8	21.8	6.0	12.6	77.4	58.1
	二番花	8/20~11/ 1	14.0		6.6		47.3	

(3) 切り花特性調査の結果

切り花品質は，各項目で試験区による大きな差は見られませんでした（表3）。

表3 規格内切り花の各項目の結果

試験区	採花 時期	切花長 (cm)	開花 分枝数 (本)	ブラシ数 (個)	ブラシ長 (mm)	翼幅 (mm)	ブラシ形 (指数)	下垂度 (指数)
慣行区	一番花	85.3	4.6	9.3	59.7	4.1	3.8	1.1
	二番花	79.4	4.3	8.6	61.7	3.5	3.3	1.3
長期 摘心区	一番花	85.3	4.5	10.7	59.6	4.3	3.5	1.2
	二番花	83.6	4.4	8.6	58.9	3.3	3.2	1.1
多灌水 区	一番花	87.2	4.5	8.8	56.2	4.8	3.8	1.2
	二番花	81.3	4.2	8.3	62.8	3.7	3.5	1.2

考察

採花本数については，採花総本数，規格内本数とも慣行区が最も高く，切り花品質に関しても慣行区と他試験区で大きな差がない結果となりました。

長期摘心区に関しては，慣行区も抽台摘心による株の養成を十分に行っているため，それ以上抽台摘心を延長しても効果が無いことが明らかになりました。

多灌水区に関しては，特に灌水管理が重要な時期に低温傾向であった今年度の気象条件においては，総量が約1.4倍の灌水量では生育に影響が見られませんでした。ただし，前述のとおり想定よりも灌水量に差がつかなかったことから，今年度の結果をもって多灌水に全く効果がないと判断することは困難と考えられました。